

資料 1

平成 2 8 年度

第二回森林環境保全基金運営委員会

～平成 2 7 年度森林環境税活用事業の総合評価(案)～

日時：平成 2 8 年 1 1 月 1 8 日(金) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

場所：高知共済会館「藤」

高知県林業環境政策課

平成27年度森林環境税活用事業の総合評価(案)

No.	事業名	評価				
		現状のまま継続	事業を拡大	事業を縮小	休廃止を検討	改善のうえ継続
1	公益林保全整備事業(木材増産推進課)	○				
2	みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)	○				
3	シカ捕獲推進事業経費(鳥獣対策課)	○				
4	希少野生植物食害対策事業(環境共生課)		○			
5	環境学習推進事業(生涯学習課)	○				
6	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	○				
7	高校生後継者育成事業(高等学校課)		○			
8	山の学習支援事業費補助金(林業環境政策課)	○				
9_1	森林環境税パンフレット等作成委託料(林業環境政策課)	○				
9_2	森林環境税情報誌作成等実施委託料(林業環境政策課)	○				
10_1	こうち山の日県民参加支援事業委託料(林業環境政策課)					○
10_2	こうち山の日推進事業費補助金(林業環境政策課)	○				
11	運営委員会等開催事務費(林業環境政策課)					
12	木の香るまちづくり推進事業費補助金(木材利用推進課)	○				
13	森林保全作業安全研修(林業環境政策課)					

【留意事項】

※高知県森林環境保全基金運営委員による評価(別添資料参照)を事務局が取りまとめのうえ、各委員の評価を総合して評価欄に記入しています。

※運営委員会開催事務費は委員が直接関わる経費であるため評価していません。

平成27年度森林環境税活用事業評価シート 基金運営委員記入欄

事業No.	資料ページ	1	公益林保全整備事業(木材増産推進課)
1	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」6票、「拡大」2票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入 0票 ・よく活用されている事業だと思う。 ・森林組合を中心として事業説明等で森林所有者の理解も広がり、うまく事業が進んでいる現状を見る中でセーフティーネットとして継続維持が出来ればとも思います。 ・森林環境税の財源は潤沢ではないため、毎年同じ森林所有者が受給するような一部の所有者のための補助となるのではなく、幅広い森林所有者の森林整備意欲を向上させるための仕組み(新規申請優先など)が必要ではないか。 ・今後、国庫補助の方針変更により、県土の森林域の保全を図るうえで手薄となる部分が多くなるようであれば事業の拡大も必要ではないか。
事業No.	資料ページ	3	みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)
2	今後の方向性		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」7票、「拡大」1票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入 0票 ・よく活用されている事業だと思う。 ・森林所有者の負担軽減のために要望が多い事業であるが、森林所有者においては保育間伐の区分部分に分かりにくいという点と市町村での10パーセント部分を考えてあげることにより広がって行くのではないかと思います。現状維持をしていただきたい事業です。 ・森林への保育間伐などの手入れを支援・強化する当事業は、県土の大多数を占める森林を保全し土壌環境を整え災害を防備していくうえで非常に重要な役割を果たしている事は理解した。 ・事業費が制限になることは理解できるが、重要なことは森林整備実施面積であり、予算申請の時に目標面積と予算とのバランスを十分に検討して欲しい。 ・国庫補助事業の申請状況と当事業の申請状況との関係がわかるような資料など、事業実施の状況がわかる資料の追加を希望。
事業No.	資料ページ	5	シカ捕獲推進事業経費(鳥獣対策課)
3	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」4票、「拡大」3票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入 1票 ・次年度については、本年の効果を検証し、事業拡大、縮小を検討すべき。 ・従来の集落での捕獲事業は一定の役割を終えて、H28から新たに捕獲困難地域で捕獲するかたちになることは良く理解できました。成果を期待しております。 ・くくりわなは改良や講習等で成果が出ているので、今後も継続をしていただきたいですが、28年度からは新しい事業が入るとい事で、鹿害に悩まされている地域において少しでも鹿害がなくなる方策を進めてもらいたいと思います。 ・当事業はワナの支給により、資格取得意欲の向上や支給わなの活用欲求により実際に一般住民に対して狩猟意欲を向上させる有効な仕掛けを形成しつつあり、また、わなを使った捕獲技術講習も実施しており、誘導事業としてよく考えられた事業であると高く評価する。今後、当事業は廃止となるが、その効果を検証しつつ、今後の頭数増減次第では再実施も必要ではないか。
事業No.	資料ページ	7	希少野生植物食害対策事業(環境共生課)
4	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」3票、「拡大」3票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」2票、未記入 0票 ・要望が少なくなったり変化しているのであれば、それに合わせて予算を変更する必要がある。これまでの事業により防護柵による保護が有効であることが明らかとなり、これからも継続していく必要があると考える。しかし新たに設置する場所は資材運搬などの困難な地域であることが予想されるので、運搬費、設置費など再考する段階に入ったと思われる。 ・今後、防護柵を増やしていくことと並行して、維持・修繕コストも増えることが予測されます。また防護柵は一部でも壊れると意味をなさない性格のものだと思われるため、少しずつでも予算を増やしていくべきだと私は思います。 ・以前には現地視察をしながら現状を見せていただき、理解が深められた中で、地道な作業ではあるが、絶滅危惧種の復活のためにも必要不可欠な事業であると思います。高知農業高校の授業の一環で防護柵設置が行われた事は大いに評価されると思います。今後は場所的にヘリコプターでの資材運搬など経費が膨らむことも予想されるので事業拡大が必要だと思います。 ・成果があがっている。ボランティアによる保護柵施設も進んでいるが、急傾斜地については費用がかかっても専門業者の力を借りる必要がある。 ・希少野生植物の植生分布は広範であり、柵の設置後の保全業務も伴うため、今後はどこまでを守るかが重要となり、現時点では保護範囲について検討されておらず、事業費がかさむ割に保護効果が低くなる事態が懸念されるため、早期に保護範囲の検討を行う必要がある。 ・当事業は、事業効果を維持したうえで事業費の抑制を行い、事業実施者に負担転嫁しない方法(維持管理費の低い防護柵や維持管理しやすいアクセス環境の整備など)を早期に検討することが重要と考える。

平成27年度森林環境税活用事業評価シート 基金運営委員記入欄

事業No.	資料ページ	9	環境学習推進事業事(生涯学習課)
5	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」6票、「拡大」0票、「縮小」1票、「廃止」0票、「改善」1票、未記入0票 ・よく活用されている事業だと思います。研修参加者が増えるような工夫を期待しています。 ・五感を養うために必要な自然体験活動事業であるが、指導者研修の参加者が少なかったり、修了者が参加できる場が少なかったり、課題が多かった様ですが、ホームページ等で情報発信などが必要だと思います。山の一日先生との区分けが必要ではないかと思ひます。 ・研修修了者の専門分野を紹介し、出前授業の申込みをとるようすれば保幼小中での活用が増加すると考える。 ・地球環境・生活環境の保全を図るためには森林機能の重要性の理解、そして林業の担い手や木材利用への理解が社会に浸透することが重要であるが、現状では十分な理解を得るに至っていない。 ・そのような中、当事業での指導者育成への支援は素晴らしいが、既存の事業との差別化を強く意識し事業を進める必要があるのではないか。 ・具体的には、新規の自然体験活動指導研修修了者の経験の場とすることが重要であるが、新規修了者が参加しにくい事業を採用したり、既研修者が行うなど、本来の事業の役割を果たされていない。 ・事業費消化や事業量確保を優先するのではなく、事業の目標のための取組を重視するような運営への転換が必要ではないか。 ・また、受講者が不足ならば、県として、市町村・県教員らへの習得支援、資格評価・実施評価システムの導入などを検討してはどうか。
事業No.	資料ページ	11	高校生森林環境理解事業(高等学校課)
6	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」4票、「拡大」1票、「縮小」1票、「廃止」0票、「改善」1票、未記入1票 ・各団体で特色があり、成果が挙げられていると思われる。 ・他の流域でも同様の教育を求めているところがあるのではと感じました。今後も同じ形で継続するならば、数多くの流域がある中で四万十川流域のみでやり続ける意義を示せると良いです。 ・高校生による森林環境教育の活動内容等広がりをも増すためにも広報媒体で取りあげていただき、多くの学校で森林環境教育として活用してもらいたい。一部偏りがあるので、高知県下の東、西、中央、山間部という風に分布してもらえたらもっと良いのではないかと思います。 ・この高校生に対する森林教育は、就職を前に社会性の育成の効果もあり、当事業の意味は大きく、実際、高校側の事業成果への評価も高いと報告があるが、実施校の増加が見られない。 ・事業成果の他校への情報提供や事業実施での工程や関係機関との連携など、実施上のノウハウの情報提供などを行い、新規参加を促す取組が必要ではないか。 ・今後は目的に即しつつ参加しやすい内容に見直すことも必要と考えるため、実施校以外へ広がっていくことが望まれる。
事業No.	資料ページ	13	高校生後継者育成事業(高等学校課)
7	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」3票、「拡大」4票、「縮小」1票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入0票 ・講師、生徒の日程等の都合はあるであろうが、需要があるのであれば門戸は広げるべき。 ・嶺北地域(特に土佐町)は、林業教育に今後大きな力を注いでいくと聞いています。現在の実施校以外でも今事業のような教育機会を求める学生はいると思われます。 ・林業作業士に不可欠な車両系建設機械の資格を取って林業作業士として林業関係の仕事についていただくことが急務になっている中で、今回も多くの学校に参加してもらい全員資格が得られて、将来的にも明るい兆しが見えてきています。只、今回、多くの資格者の中から林業関係に就職や学校進学等をしたのは4名でパーセンテージが低いので半分位が林業関係に進んでもらえたらと思ひました。今後は取得者の就職先や進学先も把握する必要があるのではないかと思います。 ・県内の木材生産従事者の育成への要望は急速な高まりを見せており、そのような状況の中で、林業関連資格の習得支援を行う意義は大きいですが、林業関連資格については、実施校は西部を中心とした学校など、地域的な偏りもあり十分とは言えないと考える。 ・特に、受け入れ側の問題もあるが、受講側の負担が高いことを考慮した場合、現状で出来るだけの対応を行っていることは理解できる。 ・今後は、制約要因の排除に努め、極力事業拡大を図ることを希望する。また、受け入れ先が今後も難しいのであれば、サテライト研修を行うなど、仕組みや研修内容を見直してはどうか。
事業No.	資料ページ	15	山の学習支援事業費補助金(林業環境政策課)
8	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」7票、「拡大」1票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入0票 ・よく活用されている事業だと思います。 ・小中学校で森林環境教育の活用が増えているようで、益々活用しやすい様にPR活動をしてもらいたいです。以前実施して、実施しなかった市町村においては実施しなかった理由等も把握する必要があると思ひます。 ・本事業は学校での森林環境教育に対する唯一の補助事業であるため、大変貴重である。高知県の子供達には森林学習を是非とも位置づけたい。 ・大人の環境保全への意識の強弱は、子どものときの自然体験が強く影響しており、森林機能の理解や森林保全の仕組み(循環のための利用が不可欠)を、幼少時に体験的に学ぶことは大きな意味があり、当事業の意義は大きいとは考えるが、実施校数が平成26年度から増加していない。 ・授業時間の確保が難しいと思ひますが、実施校の増加は重要課題であり、学校側の申請・実施ノウハウの共有のための説明会や講習会の実施などを検討してはどうか。また、取りやめた学校に対する調査などを行うなど、実施上の問題を確認することも必要ではないか。

平成27年度森林環境税活用事業評価シート 基金運営委員記入欄

事業No.	資料ページ		森林環境税パンフレット等作成委託料(林業環境政策課)
9-1	資料ページ	17	見直しの具体的方策に関する意見等
	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等 「現状継続」7票、「拡大」0票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」1票、未記入0票 ● 現状のまま継続 ○ 事業を拡大 ○ 事業を縮小 ○ 休廃止を検討 ○ 改善のうえ継続 ・自由に使えるものを作ったのはよかったと思う。専門知識がなくても直感的に理解できる内容もよかった。 ・よく活用されている事業だと思います。著作権フリーの画像データが良いですね。 ・森林環境税のチラシは斬新なデザインで凄くインパクトがあります。より内容を深めたり、興味を持たす為QRコードをつけるとかパンフレットの木の芯の部分を探ると匂いがするとか等の工夫があればよりパンフレットが活きるのではないかと思います。山の仕組みがわかるパンフレットは非常に使い勝手が良くて良いと思います。このシリーズが増えていけば良いなと思います。 ・これまでの県民調査の結果から、森林環境税の認知度・理解度の減少が見られることもあり、広報の方法についての見直しが必要である。 ・現在のものは報告的側面が強い構成であり、県民に対し情報が自己利益につながるものとして認識されず、定着性の低いものとなっているのではないかと。 ・これらの仕組みを変えるため、単なる報告ではなく、有益な情報だと受け取られるような表現方法に変えてはどうか。つまり、「読者自身や読者の家族、所属機関などが活用できる事業がある」といった活用を意識した紹介とすべきではないか。 ・このため、パンフレット等の配布時期なども重要であり、改善すべき課題も多いと思われるが、単に情報を流すのではなく森林環境税事業の認知度・理解度の向上につなげることを検討してはどうか。
9-2	資料ページ	19	森林環境税情報誌作成等実施委託料(林業環境政策課)
	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等 「現状継続」6票、「拡大」0票、「縮小」1票、「廃止」0票、「改善」1票、未記入0票 ● 現状のまま継続 ○ 事業を拡大 ○ 事業を縮小 ○ 休廃止を検討 ○ 改善のうえ継続 ・よく活用されている事業だと思います。 ・木の事を理解するのは難しくわかりにくいので「mamori」を通じて、より優しく楽しく森や木の事が伝えられ、理解できる冊子になればと思います。小中学校に配布される事は素晴らしいと思います。 ・本事業で作成している情報誌mamoriは、内容への評価が高く、配布範囲・量も充実しており、読者からの意見受付の仕組みもあり、様々な工夫がされている。 ・ただ、狙いとする若い年齢層や子育て年齢層における森や山への理解や関心は、十分な数値変化が見られるほどには改善されていないと思われる。 ・今後は、これまでの内容を活かした小中学校での森林環境教育での改善を図るのはもちろん、森林環境税を社会科での「税」に関する授業で活用したり、また、充実した誌面を活用した副読本として小中学校に配布するなど、より進んで冊子を活用した授業への支援や表彰などを行ってはどうか。
10-1	資料ページ	21	こうち山の日県民参加支援事業委託料(林業環境政策課)
	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等 「現状継続」4票、「拡大」0票、「縮小」1票、「廃止」0票、「改善」3票、未記入0票 ○ 現状のまま継続 ○ 事業を拡大 ○ 事業を縮小 ○ 休廃止を検討 ● 改善のうえ継続 ・要望が少なくなったり変化しているのであれば、それに合わせて予算を変更する必要がある。 ・よく活用されている事業だと思います。 ・森林・山村多面的機能発揮対策交付金の影響で森林ボランティアの育成研修や回数が減少した様ですが、森林保全ボランティアは森林の為に必要不可欠な事業なので、現状のまま持続継続してもらいたいです。ホームページ等を通じて広報活動にも力を入れてもらいたいです。 ・平成28年度の計画には改善策が明確に示されているので成果は大いに期待できる。 ・国の交付金事業により、当事業を活用することなく活動を展開している団体が多くあり、事業目標値の達成率の低さは、このような一時的な要因と思われる。 ・これに対しては、支援対象を取り合うのではなく、今は国の交付金事業を活用し、仮に交付金事業が終了した時のために財源を温存しておくべきであり、活用団体に無理をさせてまで実績を上げることは慎むべき。 ・あと、情報発信方法をHPやSNSなど活用されやすい様な工夫がされているところは評価できることから、今後は、活用団体が更に使いやすいよう改善を図りつつ、県庁HP、情報誌mamori、森林環境税関連イベントなどを活用し、常にPRなど情報の発信の機会を活用し、サイトの認知度を向上させることを検討してはどうか。
10-2	資料ページ	23	こうち山の日推進事業費補助金(林業環境政策課)
	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等 「現状継続」6票、「拡大」0票、「縮小」1票、「廃止」0票、「改善」1票、未記入0票 ● 現状のまま継続 ○ 事業を拡大 ○ 事業を縮小 ○ 休廃止を検討 ○ 改善のうえ継続 ・成果指標である県民参加者が大幅に増えているなど良く活用されている事業だと思います。 ・交流会事業等をふまえながら、事業も多面的に広がっていて、多くの事業が各地域で開催されていて、大きな成果を上げていると思います。現状のまま継続してもらいたいです。 ・当事業による県民参加数は大きく増加してきており、順調に伸びを見せているが、「こうち山の日」自体の認知度向上には繋がっていない。 ・特に支援事業実施時における「こうち山の日」のPR強化を事業実施団体により強く促す必要があると思われるが、支援事業実施時のPRが十分であるとの認識であれば、「こうち山の日」のPR自体が限界にあると考えるべきではないか。 ・今後、「こうち山の日」の認知度の向上に関しては、委員会でも提案もあったように、森林関連にとらわれずに「こうち山の日」自体をPRする活動を多様な主体に求めることも効果的な取組と考えられるため、例えば、これまで森林環境税の木質施設整備の支援を受けた医療機関や商業施設などの協力を得た施設内でのPR活動や、県民が注目する方法の一つとして「こうち山の日セール」と言ったイベントなど、低予算でも出来る工夫なども可能ではないか。

平成27年度森林環境税活用事業評価シート 基金運営委員記入欄

事業No.	資料ページ	25	運営委員会等開催事務費(林業環境政策課)
11	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」0票、「拡大」0票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入 8票
事業No.	資料ページ	27	木の香るまちづくり推進事業費補助金(木材利用推進課)
12	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」5票、「拡大」2票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」1票、未記入 0票 ・木質化が進んできていることは好ましい。森林環境税による事業であることが浸透しているかどうかは明らかではないが、補助対象外の施設にも木質化が進んでいるとのことで、木材利用につながって行けばよい。 ・知名度が上がり、申込が多数あるのであれば拡大しても良いのでは。 ・よく活用されている事業だと思います。 ・木の香るまちづくりが森林環境税でやっている事がもっとPRが出来たらと思います。実施事業主体も出来ればホームページなどでも写真などをUPして木の良さや森林環境税をPRしてもらいたいと思います。活用される事業者が多いみたいなので、公共性や木の香るまちづくりがわかる事業を優先して選択してもらいたいと思います。 ・全国的な木質化推進の動きとも相まって、当事業への期待・要望は大きいですが、1件当たりの事業費が高くなってしまふことから戦略的な推進が必要と考える。 ・強い印象を与えるならば、市街地の再開発や大規模施設のリニューアルなどのタイミングに併せて集中的に木質化を支援すれば面的なインパクトはあるのではないかと。 ・また、県内全域で木質化を促進することは重要だが、事業費が大きくなりやすい当事業においては、申請案件における県民の利用頻度(広がり観点から利用者の多さを重視)や利用者の固定・非固定の比率(広がり観点から非固定重視)、中心的に利用する県民の特性(次世代教育の観点から年齢の低さを重視)による効果の違いに関しても十分に配慮した事業採択が重要ではないかと。
事業No.	資料ページ	29	森林保全作業安全研修(林業環境政策課)
13	今後の方向性(案)		見直しの具体的方策に関する意見等
	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続		「現状継続」0票、「拡大」0票、「縮小」0票、「廃止」0票、「改善」0票、未記入 8票